

学校給食費値上げを抑えて

物価値上げが続出しているもとで、小矢部市が4月から小・中学校の給食費の値上げです。小学校で月380円値上げし、5,280円、中学校で430円値上げし、6,230円です。子どもが2人、3人となれば給食代が毎月1万円から1・8万円を超えます。物価が上がったからといって食材の品質を落とすことはダメですが、この値上げ分をおさえることができないのでしょうか。上田由美子市議は3月議会最終日の討論でとりあげました。



【上田市議】新聞報道によれば、政府は今日、22日にも、物価対策として地方創生臨時交付金に1・2兆円を追加する見通しです。22年度は食材の値上がり分に地方創生臨時交付金を当てました。23年度もぜひこの交付金を活用し、学校給食費を値上げしないようにするべきです。

「保護者徴収分を据え置きたい」

市教委

本会議に先立って開かれた全員協議会での上田市議の質問に、教育委員会事務局次長は「国からの財源措置がされれば、市が助成して保護者徴収分を据え置くことも検討する」と答えました。

ぜひ据え置きができるよう市民の皆さんも声を上げましょう。



明るい小矢部

No. 216
2023年5月号
6500部発行

発行
日本共産党
小矢部市委員会
小矢部市七社 245
砂田喜昭
TEL 67-4322
FAX 67-4842

日本共産党発行
毎月 3497円
日曜 930円

有機で拓く持続可能な農業を 子どもたちに安全な給食を



メルヘン有機準備会(仮称)が主催して有機農業を地域に広げる対策と技術をオンラインで学ぶ視聴会が2月18日、小矢部市民交流プラザで開かれました。正面には「有機で拓く持続可能な農業を」、「子どもたちに安全な給食を」の願いが掲げられていました。

補聴器助成

【市民の喜びの声】

「市長が直ぐに動いてくださったのですね。まさに朗報です。」(市長に申し入れた年金者組合のTさん)



高齢者補聴器購入の補助金を上限3万円(従来は2万円)とし、非課税世帯の要件を廃止します。2022年12月に年金者組合小矢部支部が「対象者をもっと広げて欲しい」と要望した内容が実現します。上田由美子市議も昨年9月議会でも質問していました。

所得に関わりなく3万円に

23年度予算

合併処理浄化槽維持管理

子ども医療費

通院も18歳まで窓口無料に

子ども医療費助成事業では、通院医療費助成を高校生にまで拡充し、18歳まで入院・通院とも窓口無料になります。上田市議が昨年9月議会で取り上げ、市長から「令和5年度からスタートしていききたい」との答弁を引き出していました。

市が補助

**汲み取り便槽の撤去、
宅内配管工事費なども対象に**

合併処理浄化槽で維持管理をきちんとして行うには、①年1回の法定検査(富山県浄化槽協会が実施)、②年4回の保守点検(浄化槽管理士がいる専門業者に委託)、③年1回の清掃(バキューム車で汚泥引抜)が必要です。これをする維持管理費用が下水道使用料よりも割高となるため、その差額を市が補助していました。この申請は、これまでは3月末までの申請が必要でしたが、今年度から、1年以内であれば、年度を越える申請も可能です。汲み取り便槽や単独浄化槽の撤去費用、単独浄化槽の雨水貯留槽への再利用や合併処理浄化槽への転換に伴う宅内配管工事費にも3万円から30万円の補助金が出るようになりました(詳細は広報おやべ4月号)。日本共産党がかねてから要望していたことが前進しました。

市施設利用料値上げ

上田市議 反対討論

物価高騰で市民の暮らしがたいへんなのに、「住民福祉の増進を基本」(地方自治法第一条の二)とする小矢部市が、公共施設を使うのは「受益者負担」だとして、10月からいっせいに施設使用料金の値上げをします。

上田市議は「公の施設は住民が誰でも差別なく利用できる」との地方自治法の規定を示し、使用料値上げをやめるように求めて、反対討論をしました。



タモリさんの「新しい戦前になるのでは」が話題になった。若い人は「いつの戦前?」。それは、1937年7月7日、

盧溝橋事件をきっかけに中国の侵略戦争が本格化し、45年に敗戦で終わった第二次世界大戦だ。映画「妖怪の孫」は岸信介の孫安倍晋三のことである。安倍の祖父、岸はA級戦犯だったが、その後首相にまで昇り詰め、政治の裏では統一協会とも手を結んでいた妖怪と描く。安倍は、憲法を変え日本を再び「軍隊を持つ国」にし、祖父を超えることを使命とした。岸田政権の大軍拡は、再び戦争への道では? ▼37年の軍事費が国家財政に占める割合は69・5%、10年前の28・1%から急増し、敗戦まで8割前後を占めていた。予算成立直後、4月の総選挙で、棄権率が前年総選挙の27%から37%に急増(東京)した。国民が政治に期待を失うと、政府は盧溝橋事件で戦争に突き進んだ▼この選挙で当選した議員らが政党を解散、大政翼賛会に合流し、戦争に加担した▼これとたたかった日本共産党を、政府とマスコミらは「国賊」「非国民」呼ばわりし弾圧した。「今でも悔やまれるのは、共産党を治安維持法で押さえつけたことだ。今のように自由にしてあげば戦争が起きなかつたのではあるまいか」(最後の海軍大将 井上成美) ▼憲法を蝕む政権を阻止できるのは、立憲野党と国民の共同の力しかない。大きな嘘を見破り、これを排除する勇氣と気概が必要だ。井上成美の後悔通り日本共産党ならできる。